ウィーン・ロンドンの今昔 ■12■

あいまいで楽観的「ウィーン気質」

ピアニスト・北海道教育大学岩見沢校准教授　深井　尚子

ウィーンの市立公園には、金色のヨハン・シュトラウス二世の記念像があり、観光の名所になっています。現在は金色ですが、私がウィーン留学中には、ブロンズ像でした。ブロンズのシュトラウスは落ち着きがあり、威厳がありました。しかし、ある時、気づいたら金色になっていて、とても驚いたことを覚えています。1991年に金色に塗り替えられ、すでに20年以上過ぎていますので、ブロンズ時代のヨハン・シュトラウス像を知っている人は、少なくなっているように思います。

この市立公園は、1862年に造成された、ウィーンで初めての市立の公園ということです。1867年に建てられた、イタリアルネッサンス様式のクア・ハウスは、まるで宮殿のように美しく、普段はレストランになっています。また、舞踏会の時期は、華やかなダンスパーティが行われます。ドナウ川の支流、ウィーン川を挟んで両端が広大な公園になっていますので、散策にはぴったりの空間です。

この公園は、たくさんの記念像があることで有名で、ヨハン・シュトラウス二世を初め、フランツ・レハール、ロベルト・シュトルツなどのウィンナワルツやオペレッタの作曲家の大理石の記念像があります。ウィーンといいますと、私は、どうしても、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームスなどの古典派からロマン派の作曲家を思い浮かべるのですが、この市立公園が、ヨハン・シュトラウスが大活躍をしていた時期に建てられたことから、公園内にあるたくさんの記念像は、「ウィンナワルツ」の作曲家のものが多いのです。

19世紀中頃のウィーンでは、芸術的な音楽と呼ばれる難しい音楽より、一緒にダンスができたり、喜歌劇で一緒に泣いたり笑ったりできる音楽が爆発的に流行しました。今も、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団が新年に行う、「ニューイヤーコンサート」では、この時代の明るく楽しい音楽を、演奏者自身も楽しみながら、華やかに演奏されますよね。古き良き時代のウィーン気質を存分に表現したこれらの音楽を、ウィーンっ子は大好きで、一般市民の隅々まで浸透しているように思います。

ウィーン気質とは、ドイツ人のようなきちんとした理詰めな行動とは異なり、「なんとなくこんな感じ…」というあいまいさがあり、苦しいときも「どうにかなるさ…」というような、ある意味、楽観的な気質といえばいいのかと思います。ウィーンフィルのメンバーと共演した時、みんなの気分でさらっと音楽が開始されることに驚いたことがあります。1拍目が、ぴったりとは合わなくても気にしないのです。

また、そのことは、ウィーンの方言にもよく表れています。ウィーン弁は、あまりはっきり口を開けず、流れるようなイントネーションなのです。例えば、Ich habe nicht.「イッヒ　ハーベ　ニヒト」と発音するべきところ、「イーオーネッ」のように聞こえます。初めてウィーンに着いた時、日本で習った標準ドイツ語が全く役に立たなかったことが思い起こされます。当時は、スーパーマーケットも少なく、八百屋さん、肉屋さん、パン屋さんなどで買い物をしなければなりませんでした。豚ひき肉を100グラム…などと会話をしなければならず、通じなくて泣きそうになったこともありました。今は、スーパーで何も話さなくても、買うことができますが…。

息子に二人目の子供が生まれるというので、妻と二人で上京することになった。

予定日は十月四日なのだが、息子はどうしても九月に出産して欲しいと言う。というのも、息子の長女が三月、嫁が六月、本人が十二月とくれば、二人目は九月でなければと、数字遊びのような理由である。

親としては、無事にさえ生まれてくれれば誕生月などどうでもよいのだが、それも面白いねと一応答えておいた。

ところがである。上京して三日目の九月二十八日、早朝から何かと慌ただしい。兆候があったというので病院に確認を取り、診察に行くことになった。診察と言っていたのが、念のため入院となり、既に用意していた入院用のバッグを届けるために、歩いて十分ほどの病院に向かった。

病室に入ると、まだみたいと嫁がケロッとして笑う。その顔を見て安心した。

午後六時半頃、職場から戻った息子が、分娩室に入ったと連絡がきたことを教えてくれた。一人目が出産に十八時間もかかったことも、夕食を取り、孫を風呂に入れて寝かせるだけにしてから、悠々と出かけて行った。

家には、年寄二人と二歳半の孫だけになってしまった。案の定、心細くなったのか孫がぐずり始めた。お母さんにあいたいようと、か細い声で泣いていくら宥めてもなかなか寝付いてくれない。

翌朝、目を覚ますと息子が来て、昨夜の九時に男の子を出産したと話してくれた。あれから寝かすのに大変だったというと不審そうな顔をする。ふいに起きだした孫が、おじいちゃんとなりでねてたよと、父親に言いつけた。息子が横目でよく覚えていないが、先に寝付いてしまったのは、どうやら私の方だったようである。

陽彩 随筆

お母さんにあいたいよう

芝木　俊治

郷土文芸

美唄川柳社

ミサイルが平和な海をかき乱す
デイサービスゲーム楽しく無駄がない　土屋　裕子

割箸の冥利祝い膳に添え
忍の字を幾度おさめて人生譜　星野　みどり

ボケの脳苦い想いも晴れにする
平和ボケ紛争地域を横にする　本田　俊朗

姥捨てと言わぬが施設まだ足りず
年金の舌に言えない好き嫌い　多田　米子

さり気なくほめる言葉にある温み
叩くのは止めて埃の出る身体　桜井　キヌ

ひとりでは生きられるだろか料理下手
真っ直ぐな話出口で揉めている　林　勝義

美唄かげろう俳句会

ぎす鳴くを待ち腰痛の腰浮かす
この地にはこの句碑一つ竜胆忌　岡田　春水

道端のコスモス倒す夜の雨
秋澄むや音なき風とすれ違ふ　開　昌女

夢の中かすかにのこし秋日和
しらじらと明けし長夜の月高し　原野　靖女

秋の日に幸せなりと夫逝けり
今生の安寧ありし秋日向　金田　洋女

思い出の庭　大紅葉伐採す
名月や胸にうさぎのアクセサリー　細田　喜久女

中空知の郷土文芸

赤平川柳社

理解不能若者言葉高齢者へ　田上　知子
リラ冷えの財布の中を覗き込む　林　勝義

利権という魔物蔓延る永田町　田上　功
理不尽な喚問嘘が一人居る　佐野　六華

リフォームだけど背比べのキズ残す　杉山　武志
良薬を聞けば買ってるコマーシャル　織田　孝子

両親の温い愛情傷も癒え　佐野　六華
理想の階段踏みはずす老後　林　勝義

利器頼り人間力が低下する　伊藤　幸一
両手で握手あの人はいい人だ　杉山　武志

離婚した友大変身の若返り　織田　孝子
リタイアをしてから世の中見えてくる　田中　忠幸

利己主義な政治に庶民踊らされ　佐野　六華
理屈述べ自分のエゴをひた隠し　田上　知子

理屈こねる幼い孫に押し切られ　織田　孝子
リズムよく朝の俎板機嫌よし　高橋　和子

良心がポロリと欠けた儲け口　田中　忠幸
リタイアの夫にリズム狂わされ　田上　知子

理解力より先行く好奇心　阿部　邦博
理屈では判っていても出る涙　高橋　和子

両方を立てて納める人ざわり　田中　忠幸
リサイタル拍手の音が温かい　田上　功

理不尽な方に抗う蟻の群れ　田上　知子
履歴書に書かぬ私の負け戦　阿部　邦博

リベンジへ古希がひもとく入門書　阿部　邦博
理髪出る明日定年の貌で出る　橋爪まさのり

君の情熱で溶かす胸の石　杉山　武志
平坦な道でつま先病んでいる　織田　孝子

雑種だが「ハーフ」と言えば聞こえ良い　伊藤　幸一
秘め事を持たぬ人生スリルない　佐野　六華

後期高齢お役所事の様にくる　林　勝義
遠い日の下宿に青春置いてきた　田上　功

本日は休業します主婦業を
精神論だけじゃ取れない金メダル　阿部　邦博

答弁は私人公人使い分け
人間の勢いのある金廻り　田上　功

毎日がど忘れでばかり暮れなずみ　高橋　和子

反省の欠片をそっと撫でてみる　織田　孝子

隠すから覗いてみたい気が起きる　伊藤　幸一

指輪抜きそれからおんな強くなる　田中　忠幸

税金の行方政治の闇深い　佐野　六華

満ち足りた笑顔に幸せもらい受け　高橋　和子

浦臼短歌会

八重桜、淡いピンクに咲き誇り「きれいきれい」と夫と眺めし　井下　隼子

元気だせ僕にもできる事がある　詩の才能が何時かは開花　玄地　祐文

風に乗り、しだれ桜の花びらは親木とわかれ路地にさまよう　斎藤　陽子

母の日にカーネーションが、つきましたやさしい嫁の心づかいか　曽根　郁代

まだ五月、急な暑さか庭に蝉とぎれとぎれの試し鳴きせる　本間マキ子

稽古（けいこ）日の着付けを終えて「ポン！！」と帯　たたきて「行ってくるネ」と妻は　森　一喜

青空と合わせ鏡のエンゴサク菩提寺境内染めて彩る　森　小夜子

北海道ご国神社にお参りし兄等の姿　瞼にうかぶ　和田　トメ

芦別市短歌連盟

二才児はクボタの本見て「おばばぼく大きくなったら乗せるね」と言ふ　藪　七三子

カロチンの多きズッキーニに血糖値託し五日をすぎて双葉挙ぐ　相野　禎子

ぐい！ぐいと大地持ち上げ花咲かす色とりどりに歓喜せる春　竹原　繁子

雪解水流るる音の心地よし春よ春よと宴の様子　小川えな子

本ベスト10

喜久屋書店岩見沢店（10／16～10／22）

単行本

①僕はロボットごしの君に恋をする　山田悠介（河出書房）
②陸王　池井戸潤（集英社）
③くるねこ 20　くるねこ大和（KADOKAWA）
④マスカレード・ナイト　東野圭吾（集英社）
⑤か「く「し「ご「と「　住野よる（新潮社）
⑥日本史の内幕　磯田道史（中央公論新社）
⑦逆襲される文明 日本人へ4　塩野七生（文藝春秋）
⑧世界一美味しい煮卵の作り方 はらぺこグリズリー（光文社）
⑨体幹リセットダイエット　佐久間健一（サンマーク出版）
⑩君たちはどう生きるか　吉野源三郎（マガジンハウス）

「忘れられた巨人」

ノーベル文学賞のカズオ・イシグロさんの最新刊「忘れられた巨人」がようやく入荷

文庫本

①浅き夢みし 吉原裏同心抄 2　佐伯泰英（光文社）
②ナミヤ雑貨店の奇蹟　東野圭吾（KADOKAWA）
③銀翼のイカロス 半沢直樹 4　池井戸潤（文藝春秋）
④忘れられた巨人　カズオ・イシグロ（早川書房）
⑤3時のアッコちゃん　柚木麻子（双葉社）
⑥十兵衛推参 本所見廻り同心控　稲葉稔（双葉社）
⑦日の名残り　カズオ・イシグロ（早川書房）
⑧マル暴甘糟　今野敏（実業之日本社）
⑨京都烏丸御池のお祓い本舗　望月麻衣（双葉社）
⑩恨み残さじ 空也十番勝負青春篇　佐伯泰英（双葉社）